

夏のプログラミング・シンポジウム

2011年の夏のプログラミング・シンポジウムは、「プログラミング言語，作る人，使う人」というテーマで，2011年9月2日(金)から4日(日)まで，佐賀県唐津市の国民宿舎「虹の松原ホテル」で開催された。

今回の夏のプログラミング・シンポジウムのテーマに関しては幹事団の間で，広く浅く捉えることのできるようなものではなく，ある特定の分野に関して深く掘り下げて議論できるようなものにする，という基本方針を立て，テーマ設定に関する議論をメールで行った。最終的に，処理系作成者あるいはプログラムの立場から見たプログラミング言語に関するテーマに決定し，5月10日に以下のような発表募集を公開した。

2011年の夏のプログラミング・シンポジウムは、「プログラミング言語，作る人，使う人」というテーマで，プログラミング言語を設計したり実装したりする立場，あるいはプログラミング言語を利用してプログラムを作成する立場の両面から，プログラミング言語というテーマを深く掘り下げて議論していきたいと考えています。プログラミングは，これら両面の立場に立つ人があって，初めて成立する作業です。作る側と使う側のそれぞれに，思い入れ，工夫，内部事情，あるいは不満などがあることでしょう。これらを皆で共有しお互いの事情を理解し合うことは，プログラミングや言語の研究を次のステップに発展させるために意義深いことと考えます。今年の夏のシンポジウムでは，プログラミング，プログラミング言語に関する，表層的でなく処理系の中身やコーディングなどにも突っ込んだディープな発表，議論を期待します。

その結果，16件の発表申し込みがあり，45名の参加者で開催する運びとなった。シンポジウム初日は，台風12号の影響による交通機関の乱れが心配されたが，台風の進みが遅く，台風上陸・縦断(高知県～鳥取県)は中日となったため，大きな影響を受けずにすんだ。各発表の内容は本報告集に掲載の論文に譲るが，いずれの発表もプログラミング言語に関してそれぞれの立場から切り込んだものであり，当初の目的通りプログラミング言語に関する深い活発な議論を展開することができた。

夕食後には夜のセッションとして，初日には三廻部大氏により「プログラミング言語を使う人」という視点から，2日目には竹内郁雄氏により「プログラミング言語を作る人」という視点から短いプレゼンテーションをいただき，それらを出発点として自由な議論を行った。三廻部氏は，これから作るプログラムの特徴をプロファイルしておくこと，あるいは，使おうとするプログラミング言語や処理系の特徴をあらかじめ調べておくことの重要性を，実体験をまじえて話された。竹内氏のプレゼンテーションは，「プログラム言語」という言葉と「プログラミング言語」という言葉の比較からはじまり，プログラミング言語 TAO の三代にわたる開発(ミニコン上，ELIS 上，SILENT 上)の実体験に関するものであった。さらに飛び入りのプレゼンテーションも交え，楽しい時間を過ごすことができた。このような夜のセッションも，プログラミング・シンポジウムの醍醐味の一つであることを，改めて実感させられた。

最後に、発表者・参加者各位，ならびに，開催にあたり御尽力くださった方々に感謝の意を表したい。

2011年夏のプログラミング・シンポジウム幹事団

幹事長 岩崎 英哉 (電気通信大学)
川中 真耶 (東京大学)
小出 洋 (九州工業大学)
田中 哲朗 (東京大学)
松崎 公紀 (高知工科大学)
三廻部 大 (グーグル株式会社)